



営農NEWS



カボチャ栽培における病害虫の防除対策

県内における半促成のカボチャ栽培には、パイプハウスを利用した栽培、2.7m幅または 1.8m幅のトンネルで被覆する早熟栽培などがあり、早い作型では 5 月下旬頃より順次に生産物が出荷されていきます。

これらの栽培では、生育の初～中期をビニール被覆内で栽培するため、茎葉病害虫の発生は多くありませんが、被覆を開放する頃より、うどんこ病やべと病、疫病などの病害や、アブラムシ類、アザミウマ類、ウリハムシなど害虫類の発生が増加してきます。これら病害虫の発生は、概して降雨日が多くて多湿条件が続けば疫病やべと病などが、日照りが続くとうどんこ病やアブラムシ類、アザミウマ類などが多く発生する傾向です。

これらのうち、疫病は発病してからでは防除効果が劣りますし、果実に被害が発生すると直接の大きな減収になりますので、予防散布が必要になります。また、うどんこ病やべと病も多発生してからでは薬剤の防除効果が低下しますので、予防または発病初期の防除が特に重要です。

良品質なカボチャの安定生産を図るため、適正な栽培管理とともに、病害虫の早期発見、早期防除に努めてください。

【防除対策のポイント】

- 1) 下葉や葉の込み合っているところの葉裏などを丁寧に観察して、病害虫の早期発見に努めましょう。
- 2) 被覆を開放したら、事前の予防薬剤散布に努めましょう。また、病害虫の発生を確認したら、必要に応じて的確な防除を行ってください。薬剤散布では十分量の薬液で、葉裏や下葉、株元にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。なお、収穫前日数に十分注意して、薬剤を選択してください。
- 3) 降雨が続くようなときは、圃場の排水を改善して、浸冠水や停滞水を回避してください。
- 4) 果実は直接土に接しないように、着果後 20 日目頃から順次に敷物などをしましょう。
- 5) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。

表 1 カボチャ うどんこ病の主な防除薬剤（平成 28 年 4 月 13 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
モレスタン水和剤	2,000～4,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
トリフミン水和剤	3,000～5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
ダコニール 1000	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
ベルコート水和剤	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
イオウフロアブル	500 倍	— / —

表 2 カボチャ 疫病、べと病の主な防除薬剤（平成 28 年 4 月 13 日現在）

対象病害		薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
疫病	べと病			
○	○	ランマンフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
○	○	プロポーズ顆粒水和剤	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
○	○	フェスティバル C 水和剤	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
○	○	フォリオゴールド	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
○	○	アリエッティ水和剤	400～800 倍	収穫前日まで / 3 回以内
	○	ダコニール 1000	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内

表 3 カボチャ アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類、ウリハムシの主な防除薬剤（平成 28 年 4 月 13 日現在）

対 象 害 虫				薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	ウリハムシ			
○				モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000 倍 4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
○		○	○	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
○	○			アグロスリン乳剤	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
	○			アフーム乳剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
		○		サンマイルフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040